



巻頭言

小児内科 教授 / あべ よしひさ
阿部 祥英



今年、当院は開院10周年を迎え、私が赴任してからは5年が経過しました。この5年間だけをみても医療のみならず、世界ではいろいろな出来事がありました。もちろん、コロナ禍も例外ではありません。コロナ禍によって医療は大きな制約を受け、まだまだその影響は残っていますが、医療現場もようやく「日常」を取り戻しつつあります。

当センターは、「小児医療の地域貢献」を Mission（社会における存在意義）に、「幅広く診療できる小児科医“子どもの総合医”集団」を Vision（未来の理想像）に掲げ、診療能力の向上に努めています。

したがって、医師個人の専門性に固執せず、日々の診療をおろそかにしないこと、一人ひとりを丁寧に診療することを心がけています。近隣の医療機関からの紹介によって、当センターでは年間の入院患儿の数が増加傾向です。2023年には開院以来の数を更新しました。前述の診療姿勢を崩さないように留意しながら、地域の小児医療の受け皿としての役割を担いたいと考えております。

小児医療が担うべき分野は幅広く、我々小児科医には患儿が心のほか、どの臓器に問題を抱えていても対応できる総合力が求められます。一般的な検査や治療はもちろんのこと、食物アレルギーの患儿にも適切に対応すべく、食物負荷試験も行っています。小児外科医の支援も充分で、新生児および6歳未満の乳幼児の手術は年間200件を越えています。不登校や虐待を未然に防ぐため、こどもを取り巻く環境にも目を向けています。急性期病院の役割を停滞させないため、ソーシャルワーカーや退院調整看護師とも協力してNICU出身の重症児が円滑に在宅療養へ移行できるように支援し、レスパイトにも対応しています。地域から病児保育への対応も望まれており、2025年初め、当院ではその役割も新たに担う予定です。

大学病院は医療を提供するだけでなく、教育機関でもあります。我々の不足は引き続きご叱責ください。近隣の医療機関のみならず、地域の多くの方々からの求めに応じ、地域に育てられ、頼りにされる、頼りになると言われる小児医療チームを目指したいと思います。



第128号のトピックス

- ・巻頭言（小児内科）
- ・防災訓練を行いました
- ・第19回公開講座動画公開のお知らせ
- ・地域連携講演会を開催しました
- ・クリスマスイルミネーション点灯のお知らせ
- ・年末年始休診のお知らせ
- ・世界早産児デーイベントを開催しました
- ・編集後記

防災訓練を行いました

11月7日（木）に令和6年度防災訓練を実施しました。今回の訓練では、東京湾北部で大規模地震が発生したと想定し、災害対策本部の立ち上げと、本部における情報収集活動、各部署から本部への被害状況報告について訓練を行いました。



災害対策本部訓練では、各部署からの被害状況を収集し、情報を書き出すことで、院内のインフラや患者数・職員数等を速やかに把握しました。



また、災害対策本部訓練と並行して、病院の一部施設を使用してのトリアージ活動訓練を実施しました。訓練参加者はトリアージエリアの設営、模擬患者の診療・搬送、トリアージタグの記入等の活動を通じて、災害発生時の患者の初期対応について、理解を深めました。

総合受付の前に中等症エリアを設置し、搬送されてきた模擬患者の診療を行いました。



トリアージとは？

災害時に多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために、傷病者に治療優先順位を決めることをいいます。

トリアージ訓練参加者向けに事前勉強会を開催しました。座学で災害発生時の初期対応の知識を深めるのみならず、エアーストレッチャーの組み立て方や引き方等、トリアージ活動で使用する物品について実習を通じて学びました。

第19回公開講座動画公開のお知らせ

10月14日（月・祝）に当院で開催した「第19回公開講座『健康と手をつなぐ』」の講座内容を、当院ホームページにて12月2日（月）～1月31日（金）の期間限定で公開しています。ぜひご覧ください。

『健康と手をつなぐ』

演題：「からだのサインを見逃さない！手足の症状からわかる脳神経疾患」

演者：昭和大学江東豊洲病院 脳神経内科 准教授
栗城 綾子（くりき あやこ）

演題：「手は症状を映す鏡」

演者：昭和大学江東豊洲病院 整形外科 准教授
久保 和俊（くぼ かずとし）



URL) <https://x.gd/gU2LW>

地域連携講演会を開催しました

11月6日（水）、東武ホテルレバント東京（錦糸町）にて第7回昭和大学江東豊洲病院地域連携講演会を開催しました。井上晴洋消化器センター長の「逆流性食道炎に対する内視鏡治療の実際」と題した講演と懇親会の2部構成で行われ、当日は多くの地域医療機関の方に来場いただき交流を深めました。



懇親会で他医療機関の方々と交流を深めました



井上晴洋センター長の講演

ご参加いただいた先生方には改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

これからも地域との連携を深め、ご期待に添えるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

クリスマスイルミネーション点灯のお知らせ

1階エスカレーター下にクリスマスツリーの設置と正面玄関前のイルミネーションを実施しています。ご来院の際はぜひ、クリスマスのイルミネーションをお楽しみください。



昨年のイルミネーションの様子



年末年始休診のお知らせ

2024年12月29日（日）から2025年1月3日（金）は、年末年始のため休診となります。あらかじめご了承ください。



世界早産児デーイベントを開催しました

11月17日は「世界早産児デー」です。世界で生まれる赤ちゃんの10人にひとりが早産で生まれています。早産とは、37週未満で生まれた赤ちゃんのことをいいます。このイベントの主旨は、早産についての認識を高め、世界中の早産児とその家族の関心を高めることです。



NICU スタッフ



周産期センタースタッフ

多くの方に知って頂きたい、啓蒙活動の一環として周産期センター・NICUにポスターを掲示しました。また、公式カラーにちなんだラベンダー色のマスクを着用し勤務しました。

編

集

後

記

「むかしの豊洲」について、長くお住まいの患者さんからお話を伺うことがあります。造船所や製鉄所に囲まれた昭和40年ごろまで、当地は鉄鉱石や石炭の集積地だったこと、向かいの東京電力豊洲火力発電所からは煙が沸き立ち、東京ガスの工場とガスタンクがそびえていたこと、貯木場が木場から新木場に移転した昭和50年ごろまでは、運河に大量の木材が浮かんでいたこと、などを伺いました。豊洲の人口は、昭和63年の豊洲駅開業時の8千人から5倍になっているようです。わずか30年で、東京有数の工業地区からマンションやオフィスビルに囲まれた新しい街に変貌したことになります。

一方当院は昭和大学附属豊洲病院（昭和57年）→昭和大学江東豊洲病院（平成26年）という変遷を経て、今年開院10周年を迎えることができました。地域の医療圏に貢献できるよう、まごころを込めてこれからも診療に努めてまいります。

リハビリテーション室

/

ながしま じゅん
長島 潤



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ